第 139 回日本薬学会年会　理事会企画シンポジウム OS01
男女共同参画−世代間・男女間ギャップを語る

3 月 21-23 日に千葉（幕張メッセ）で開催された第 139 回日本薬学会年会の男女共同参画推進企画シンポジウムを、一部ですが拝聴してきました。

今回、病院、国立系研究所、薬学系大学院、薬局、製薬企業から、性別・年齢も多様な方々が講演者を迎え、「男女共同参画的な視点」で、それぞれの職場における現状や問題点を紹介されていました。このような企画のシンポジウムは、女性だけの講演に偏りがちですので、大変新鮮でした。

最後の総合討論では、大学院生などの聴衆からの質問に対して、複数の講演者から、薬剤師が学位をとることの意味（信頼されるようになる、自信をもつ、安定する）や、企業等から留学することの意義（ただ行ってきたという事実だけでなく、その結果として新たなテーマを立ちあげられるかが大切）、など具体的な助言がなされていました。

薬学会ですので、薬剤師の職場である病院においても、薬剤部長などの管理職に女性が少ないことについて話がありました。適任者がいないという意見に対しても、将来の女性幹部候補生を育てるのに何が足りないのか、を考えるべきでは、という提案もなされていました。

また、薬学に関することだけでなく、医学部や附属病院をもつ大学の聴衆から、「最近では、医師夫婦も妻の職場異動が優先されており、良い女医をいかに医局に入れるかが重要、との認識がある」とのコメントもありました。

薬学部 生物薬学講座

生体防御学分野

大橋 綾子